

ブラジルの地から みんなを大事にする社会を

ブラジル東北部のレシフェ市で、障害当事者が企画・運営するHIV／エイズ教育が進められている。この活動を支援するのが、国際NGO・障害者インターナショナルの日本組織、認定NPO法人DPI（障害者インターナショナル）日本会議だ。



認定NPO法人DPI日本会議の活動の様子や団体の詳細はホームページをご覧ください。
<http://www.dpi-japan.org/>

ろう者による非識字層の障害者へのHIV／エイズ教育

ブラジル東北部に位置するペルナンブコ州レシフェ市。ここを拠点に活動するDPI日本会議の盛上真美さんは、ある日、こんな光景を目撃した。
「自分たちのことは自分たちで考えろ！健聴者に頼るな！」

地域のろう組織のリーダーの一人が、ろう者の青年に投げ掛けた一言。その光景を見ながら、盛上さんは、これまで進めてきたプロジェクトが着実に成果を上げていることを確信した。

ペルナンブコ州が位置する東北部は、国内でも特に貧困度が高く、障害者の割合が高い地域の一つ。DPI日本会議では、これまでも世界各国で、障害者が地域の中で自らの意思・決定で生活できるようになるために、当事者のエンパワメントと自立生活運動に取り組んできた。



現する機会も与えられませんでした。彼ら自身が主体となり、自らの権利とニーズを主張していく場が必要だと考えたんです。ろう者同士で何度も議論を重ね、HIV／エイズ教育の啓発を進めてい

分かる言葉で伝えよう

プロジェクトたんぽぽを通じて、ろう者のスタッフが学んだのは、手話にとらわれない教材づくり。「手話の理解度は人によってさまざまで、知っている単語の数にも差があります。単に文字を手話に訳すだけでは不十分でした。そこで彼らは、自分たちで分かり合えるコミュニケーション方法を探した。その結果生まれたのが、ジェスチャーや簡単な手話を使ったビデオ・寸劇だ。文字をまったく使わない、イラストだけのパンフレット

も作成した。当事者だからこそ考え付く、当事者のための配慮だ。

そして今、JICA基金を活用し、ろう者以外の知的、肢体、視覚などの障害を持つ人にも対象を広げて活動を進行中。視覚障害のある人には作成したガイドブックの点字印刷、そして寸劇には音声描写を付けた。知覚障害のある人とはイラストの教材を共有したりと、当事者の多様なニーズを反映した教材が次々と考案されている。

教材の作成に協力したダウン症の女性

は、「ろう者と一緒に活動できる大変貴重な機会でした。手話も少し勉強できて、自分の名前を手話で伝えられるようになりました」とうれしそうに話す。「このよう

な体験こそが、私たち障害者の社会参加を促すきっかけになるのではないのでしょうか」。

さらに、「活動を進めていくためには、地域社会との連携は不可欠」と強調する盛上さん。自治体、学校・保健所などの公的サービス機関、他の障害者団体などとの連携にも積極的に取り組み始めたこと

その中で、今ブラジルの活動で力を入れている分野の一つが、読み書きができない障害者に対するHIV／エイズ教育だ。

「音声や文字へのアクセスがない非識字層の障害者には、性的虐待やエイズ予防などの知識が十分に届きません。それ故に感染リスクも高く、公共サービスからも完全に除外されているのです。2008年からはJICAの草の根技術協力事業を通じて、「ろう者組織の強化を通じた非識字層の障害者へのHIV／エイズ教育（通称・プロジェクトたんぽぽ）」を開始。非識字層の障害者を対象に、HIV／エイズの啓発活動を行っている。

プロジェクトたんぽぽは、ブラジルでも画期的なプロジェクトとして注目を集めている。ろう者自身が活動の担い手となっているからだ。「これまでは、専門家や介助者、手話通訳者、家族などが常に彼らの代弁者となり、自らの意思を表

で、地域での認知度も徐々に上がり、メディアや学校、病院などからのワークショップの依頼も増えてきているという。

「ろう者は『自分たちのグループに閉じこもりがち』と言われることが多いですが、少なくともこのプロジェクトのメンバーは、他の障害者のニーズについて学ぶことにとっても積極的です。ブラジルよりもっと貧しい国の障害者のエンパワメントにも関心を持っています。将来的には、彼らの活動を世界各地で生かすことができれば」と語る。

世界には、自らが主体となって行動する機会に恵まれない障害者がたくさんいる。障害当事者のエンパワメントを促進し、みんなを大事にする社会づくりを支援していきたい。盛上さんの夢は、いつの日か、たんぽぽの綿毛となって世界に広がっていくだろう。



(上)人体の部位について教えるため、図を使った教材を作成
(下)人体モデルを使って、胎児の発育過程についての講習会を開く



HIV／エイズの検査クリニックへの訪問。HIVテストやカウンセリングについての話を聞く



ジェスチャーによる寸劇の収録をするスタッフたち。その演技力はプロ顔負けだ

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>